大杉栄らの剖検鑑定書

鑑定書

原 籍 不詳

現 住 所 不 詳

職業不詳

大 杉 栄

推定年令 三十九才

原 籍 不詳

現 住 所 不 詳

職業不詳

母 藤 , -

推定年令 二十九才

原 籍 不詳

現 住 所 不詳

姓名不詳 男性児

推定年令 十才

大正十二年九月二十日第一師団軍法会議予審官 陸軍法務官服部国造へ陸軍憲兵大尉甘粕正彦殺人 被告事件ニ付被害者右三名ノ死因ヲ鑑定スペキコ トヲ東京市麴町区大手町一丁目一番地東京憲兵隊 本部構内ニ於テ余ニ命ゼリ依テ同日午後一時三十 分同所ニ於テ陸軍法務官服部国造立合ノ下ニ死體 所在地ヲ観察シ更ニ死體ハ便宜上東京市麴町区隼 町東京第一衛生病院第五番室ニ送致シ同所ニ於テ 同日午後三時三十分ヨリ翌二十一日午前十一時二 十六分ニ至ル間ニ同官立合ノ上剖検セリ。 其所見左ノ如シ。

第 一 現場所見

死體ハ三體共前記東京憲兵隊本部構内東北隅弾薬 庫ノ土台石ヲ去ル四尺ノ地点ニアル廃井戸中ニア リ,該井戸ハ無蓋ニシテ直径三尺深サ水面迄一丈

二尺水深臨検時三尺(死體引上ノ為汲出シアリ) 井戸側ハ木造ニシテ井水ハ甚ダ不潔ナル濁水ナリ 井戸ノ上部ヨリ見ルニ附図ノ如キ位置ニ於テ畳表 ニテ包ミ麻縄ニテ縛セル三個ノ死體アリ。

第 二 剖検的死因鑑定

第一項 男性屍(大杉栄)九月二十日午後三時三 十分乃至午後六時五十三分

男性屍ハ全部畳表ニテ包マレ唯両足関節以下外部 ニ現ハル畳表ヲ括ルニハ麻ノ細縄ヲ以テシ頸部胸・ 部中央腹部中央膝間節部足関節部ノ五ケ所ヲ緊縛 セリ,畳表ヲ除クニ頸部ハ麻細縄ヲ二重ニ撚リタ ルモノヲ以テ甲状軟骨直上ヲ輪状ニ三重ニ絞扼シ 其結節ハ前正中線ニ一致ス。

屍ハ晒木綿製越中褌ヲ緊メ肛門部ニ一致シテ帯黄 色泥状ノ糞便拇指頭大ヲ附着ス。

(甲) 解剖検査記録

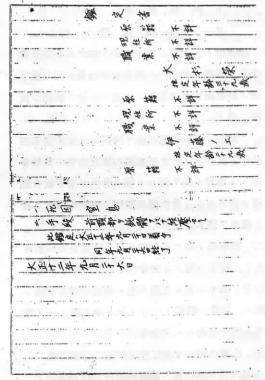
上. 外表検査

一・男性屍 體格営養共二良好身長五尺四寸一分二・皮 膚 上腹部以下一般ニ蒼白ニシテ胸部, 背部ハ暗紅色ヲ呈シ指圧ニ依リ褪色セズ頸部絞 扼部ニ於テハ索溝ニ一致シ蒼白色ヲ呈ス。

死後強直ハ何レノ関節ニ於テモ認ムル能ハズ。 三。頭部及顔面,頭部毛髪ハ其色漆黒ニシテ密生 シ長サ約九糎一定ノ排列無シ,有毛部ニ損傷ヲ 認メズ。

顔面ハ一般ニ紫藍赤色浮腫状ニ腫脹シ両眼共閉 デ上眼瞼特ニ左側ハ暗赤色ヲ呈シ皮下ニ溢血ヲ 見ル,両眼球共突出シ角膜暗赤色高度ニ溷濁シ 瞳孔ヲ見ル能ハズ,眼球結膜下ニ溢血ヲ見ル, 左眉ハ其外半部表皮ト共ニ剝脱セラルモ出血等





無シ,両鼻孔ョリ暗赤色ノ液ヲ出シロハ半開ノ 位置ニアリテ舌ハ歯列ョリ一糎凸出ス。 右耳ョリ流動性紅色ノ液小量出ヅ。

四。胸部,前面胸骨部ニ於テ第三肋骨ノ高サ以上 ノ部ニ七個ノ示頭大暗赤色ノ部アリ,試切ヲ加 フルニ出血ヲ認ム,同胸骨部第五肋骨ノ高サ以 下劔状突起ノ下方一指横径ニ至ル迄手挙大暗赤 色ニシテ一部表皮剝離セル所アリ該部ニ小切ヲ 加フルニ出血ヲ認ム其他右胸第六肋骨以下第八 肋骨ニ至ル迄及左胸第七肋骨部ニ相当シ何レモ 前腋窩線ニ達スル表皮剝脱アリ。

五. 腹部,皮膚ハ蒼白色ニシテ中等度ニ膨満ス。 六.外陰部,陰毛ハ漆黒色ニシテ密生シ陰茎亀頭 ヲ軽圧スルニ乳白色ノ液ヲ小量出ス,睾丸ハ鳩 卵大ニシテ左右同大ナリ陰部ニ損傷無シ。 肛門ハ哆開シ黄色軟便小許附着ス。

七.上肢,上膊両側共腋窩/高サ及前膊中央部ニ 表皮剝離アリ試切ヲ加フルモ出血ヲ認メズ,指 関節ハ半掌屈シ両手共蒼白色ニシテ皺襞ヲ呈ス, 右手背第二第三掌骨及指骨底部ニ表皮剝脱アル モ出血無シ。

八.下肢,一般ニ蒼白色ニシテ両側膝関節前面及 両側足関節ノ直上ニ一致ン各外側ニ亘リテ表皮 剝離アルモ出血無シ,両足ハ背面及蹠面共ニ蒼 白色ニシテ皺襞ヲ呈ス。

九.背面,頸部絞扼部ニ相等シ一部表皮剝離アリ, 該部暗赤色ヲ呈シ試切ニ依リ血液ノ浸潤セルヲ 認ム,背面全部ニ暗赤色ノ屍斑アリ,右肩胛間 部中央ニ於テ胡蝶形(従二寸三分,横一寸三分) ノ表皮剝離アリ,左腰部大転子ョリ左腸骨後上 棘ニ連ヌル線上ニ二個及右臀部中央ニ一個拇指 頭大ノ表皮剝離アリ何レモ出血無シ。

下.内景検查

(其一) 頸胸臟器

- 十.頸部以下正中線ニ於テ皮切ヲ加フルニ甲状軟 骨直上索溝ニ相当スル部及胸骨全長ニ亘ル皮下 並ニ筋組織内ニ暗赤色ノ血液アリ全ク凝固シ拭 除シ得ズ
- 十一・胸部,前胸軟部組織ヲ排開スルニ右側第四 肋骨ハ乳線上ニ於テ左側第四第五肋骨ハ其軟骨 部トノ境界ニ於テ何レモ完全骨折ヲ有シ軟骨部 僅ニ陥入セリ,骨折部周囲何レモ拇指頭大ニ亘 リ凝血ヲ認ム。
- 十二.横隔膜ノ高サ右乳線上第三肋骨左第四肋骨 ナリ,胸廓ヲ開クニ胸骨内面第二肋骨以下第五 肋骨ノ高サニ至ル迄暗赤色ノ凝血附着シ拭除シ 難シ,胸骨ハ體部上三分ノート中三分ノーノ境 界ニ於テ横走セル完全骨折アリ。
- 十三・心囊ヲ開クニ淡紅色ノ漿液二〇立方糎アリ, 心囊内面ニ溢血或ハ繊維性癒着ヲ認メズ。 心臓ノ大サ本屍ノ手挙大ニシテ大動脈血ハ暗赤 色流動性ナリ,心外膜下脂肪ハ中等度ニシテ冠 状静脈怒張セリ,右心室上部及左心房附近ニ於 テ豌豆大のモノ八個其他約二十個ノ点状外膜下 溢血斑アリ,右心室肺動脈基底部ニ示指頭大ノ 溢血アリ,尚右心房上部ニモ豌豆大及至粟粒大ノ外膜下溢血十個アリ,心臓ヲ開クニ右心室前 壁ノ乳頭筋腹ニ小指頭大暗赤色ノ部アリ試切ヲ 加フルニ凝血ヲ認ム,尚左心室前壁中央ニ於テ 豌豆大ノ溢血斑アリ,弁膜装置ニ異常無シ,大 動脈基始部ニ点状脂肪斑アリ,心筋ハ溷濁シ淡 褐色ヲ呈シ肥厚ヲ認メズ,各房室共内部ニ血液
- 十四.肺,両側胸膜ノ癒着無ク胸腔内液ノ猪溜モ 無シ。

ヲ見ズ,重量三三〇.〇瓦ナリ。

左肺, ハ表面滑沢ニシテ肥厚溷濁無ク硬度ハ弾 力性柔軟ニシテ平等ナリ, 割面暗赤色ニシテ下 葉ハ特ニ暗色ヲ呈シ左肺下葉ニ至ル気管支内ニ ハ一部凝固一部流動性ナル血液充満セリ。 右肺ノ所見ハ左肺ト同様ニシテ血量ニ富ミ下葉

十五.頸部諸臓器.ヲ細検スルニ

舌ハ右舌縁尖端ヲ去ル二糎ノ部ニ浅キ裂創アリ, 該部示指頭大ニ暗赤色ヲ呈シ試切スルニ出血ヲ 認ム。

咽喉頭粘膜暗赤色ヲ呈シ充血高度ナリ。

ニ向ウ大気管支内ニ小量ノ凝血ヲ認ム。

舌頭ハ右大角中央左大角上三分ノ一及中三分ノ 一ノ境界部ニ於テ全骨折ヲ呈ス。

甲状軟骨ハ左側斜線ニ一致シテ容易ニ屈曲スル コトヲ得。

食道粘膜ハ紫藍赤色ヲ呈シ充血ス。

気管内ニハ粘稠血様並ニ粥状ヲナセル暗赤色ヲ ナセル物質小量ヲ認ム,気管粘膜一般ニ高度ノ 充血ヲ呈スσ

(其二) 腹 腔 臓 器

- 十六、腹腔、ヲ開ケバ大網膜胃小腹及横行結腸暗 朱色ヲ呈シ膨出ス,腹腔内ニハ暗赤色漿液二〇 ○.〇立方糎ヲ有ス,蟲様突起ハ長サ七。○糎 ニシテ太サ鋭筆大左ニ角状ヲナシテ屈曲シ後腹 壁ト繊維性ニ癒着ス。
- 十七。肝臓,大サ二六.五 一五。五 〇. 五糎重サ一五三〇.〇瓦表面滑沢硬度弾力性柔 軟割面血量ニ富ミ其色暗赤色肝小葉著名ニシテ 割面膨隆ヲ見ザルモ稍溷濁ス,肝縁ハ鈍ナリ, 肝表面ニハ全ク損傷ヲ見ズ。

胆囊内ニハ小量ノ稀薄ナル胆汁ヲ有シ粘膜ノ性 状ハ常ノ如シ。

十八.脾臓 大サー三.○ — 七.五 — 三.五 糎,重サー二○.○瓦,表面皺襞ニ富ミ莢膜非 薄透明硬度弾力性柔軟割面血量ニ富ミ暗赤色ヲ 呈シ瀘胞著名ナリ,実質ハ鞏固ニシテ擦過スル 能ハズ。

十九 · 右腎 , 大+--- · 五 --- 五 · 五 --- 二 · 五 糎 , 重+-四二瓦

硬度柔軟被膜ノ剝離容易ナリ,割面腫脹溷濁シ血量ニ富ミ暗赤色ニシテ特ニ髄質ニ於テ高度ナリ,腎孟粘膜ニ異常無シ。

左腎,大サー二・○ — 六・五 — 三・○糎, 重サ一七五瓦

所見ハ右腎ト同様ナリ。

二十.膵臓,重サー一〇・〇瓦

便度柔軟割面一般ニ帯黄赤色ニシテ體部中央ニ 於テ拇指頭大暗赤色ノ出血竈アリ,該部ニ実質 ヲ認メズ,周囲組織内ニモ凝血ヲ認ム。

二十一.胃,高度ニ膨満シ血管著シク充盈シ内容 ハ帯黄白色僅ニ消化セル米麦粒ヲ混セル粥状物 質ナリ。

胃粘膜ハ溷濁腫脹シ特ニ小彎胃底部ニ近ク前壁 ニ於テ帯緑暗赤色帯状ヲ呈セル粘膜下溢血ヲ認 ム。

- 二十二。腸,瓦斯ヲ以テ著シク膨満シ横行結腸中央前壁ニ鶏卵大ノ漿膜下溢血アリ,其他ノ粘膜面ハ蒼白ナリ。
- 二十三.膀胱,小量ノ透明黄色尿ヲ有シ粘膜充血 セリ。

(乙) 説 明

上記ノ解剖所見ニ依レバ

- 一・外表検査上屍斑著明,顔明紫藍赤色ニシテ腫 脹シ眼球凸出,眼球結膜下ノ溢血,舌尖ノ凸出, 精液及糞便ノ漏出等ヲ認ムルハ窒息急死ニ通常 見ル所ナリ。
- 二.内景検査上,血液ハ主トシテ暗赤色流動性ニ シテ肺ノ暗赤色流動血ニ富ミ冠状静脈ノ欝血, 心臓ノ溢血斑気管咽喉頭粘膜ノ血管充盈,腹部 諸臓器の鬱血等ヲ認ムルハ何レモ窒息急死タル ノ徴標ナリ。

三.前胸軟部組織内ノ出血胸骨及肋骨ノ骨折等該 部ニ鈍體ニ依ル強大ナル外力ノ加ハリタルヲ示 シ血液ノ凝固セル事及骨傷部附近ノ出血ハ共ニ 絶命前ニ受傷セシ証左ナリ。

而シテ此へ死ノ直接原因ナラザルモ死ヲ容易ナ ラシメタル事へ明白ナリ。

- 四。胸部以外ノ軀幹四肢ニ於ケル諸所ノ表皮剝脱 ハ該部蒼白ニシテ乳嘴出血其他生活反応ノ徴無 キヲ以テ死後屍ノ取扱ニ際シ生ジタルモノト認 メラル。
- 五。膵臓ニ比較的大ナル限局性出血竈ヲ認メ概ネ 之ヲ覆ヘル横行結腸中央部ニ溢血斑ヲ有スルハ 生前上腹部ニ外力ノ加ハリシヲ推定セシム,腹 部内臓器ハ鈍體ノ衝突ニ依リ柔軟ニシテ抵抗力 強キ腹壁ニ何等損傷ヲ貼サズシテ受傷スルコト アルハ屢々見ル所ナリ。
- 六。頸部剖検所見ニ依レバ頸ノ一部ニ表皮剝離アリテ暗赤色ヲ呈シ血液ノ器潤セルヲ認メ一見生前ノ受傷ノ観アルモ本屍ノ如ク流動性ノ血液ニ富ミ損傷部位カ垂下ノ位置ニアルトキハ死後受傷ト雖モ組織流動性血液ノ為器潤セラレ生活反応ト区別シ難キ所見ヲ呈スルコトアルモノニシテ本屍ニ於テハ前頸部及側頸部皮膚ニハ何等生活反応痕跡ヲ認メザルヲ以テ該表皮剝脱ハ死後ノ受傷ニシテ麻縄ハ絶命後纒絡セシモノト推定セラル。
- 七。前起窒息急死ノ所見ヲ有シ手足蒼白ニシテ皺 襞ニ富メルハ一見溺死セルモノノ如クナルモ肺 及胃腸内ニ溺死液或ハ其萊雑物ノ浸入ヲ認メザ ルハ溺死ヲ否定シ死後屍ヲ液中ニ投ジタルヲ証 明セルモノナリ。
- 八.前頸部ハ麻縄ニ依ル蒼白ナル索溝ヲ有スル外 皮膚ニ外傷無々而モ甲状軟骨直上部附近ノ皮下 並ニ筋肉内出血,舌骨々折甲状軟骨左板ノ可動 容易ナルコト等ヨリ頸部ヲ鋭利ナラザル(太紐, 手指,手挙,前膊等)物體ヲ以テ絞圧セルモノ

ト推定セラル, 而シテ斯クノ如キ外力頸部=襲来スル時ハ人ハ之レガ為容易=窒息急死=至ルモノナリ。

(丙) 鑑 定

上記説明ノ理由ニ依リ鑑定スル事左ノ如シ。

- 一.本屍ハ頸部ヲ鈍體ヲ以テ絞圧セラレ窒息急死 セルモノナリ。
- 二。胸部ノ外傷及膵臓ノ損傷ハ絶命前鈍體ニ依ル 暴力ノ為生ジタルモノナリ。

第二項 女性屍(伊藤ノエ) 九月二十一日 午前七時三分乃至午前九時九分

女性屍へ畳表ニテ全部包マレ何レノ體部ヲモ外部ョリ見ル能ハズ,男性屍ト同様ノ麻細縄ヲ以テ頸部,中腹部臀部膝関節及足関節部ノ五ケ所ニ於テ二重ニ畳表ノ上ョリ緊縛セリ,畳表ヲ除クニ頸部ハ麻縄ヲ以テ五重ニ絞扼シ其結目ハ前正中線ョリ約一糎左方ニ位ス,此外身體ニ附スル何物モ無ク全ク裸體ナリ。

(甲) 解剖検査記録

上外表検査

- 一. 女性屍, 體格栄養共二良好, 身長五尺
- 二.皮膚,前胸部及臍部ニ於テハ汚穢ナル帯青緑 ヲ呈シ両上膊及肩胛部ニ亘リ淡紅色ノ屍斑アリ, 臍ノ周囲右大腿及左下腿浮腫状ヲ呈スルモ圧痕 ヲ残サズ,両手両足ハ蒼白ニシテ皺襞ニ富ム, 死後強直ハ既ニ融解セリ。
- 三・頭部及顔面,頭部毛髪ノ漆黒色ニシテ長ク密生シ後頭部ニ於テ結髪セラレ有毛部ニ損傷ヲ認メズ,顔面高度ノ紫藍色乃至死後腐敗ニ依ル汚青色ヲ呈シ浮腫状ニ腫脹セリ,両限共閉ヂ両眼眼球ハ凸出シ角膜ハ帯裼灰白色ニ溷濁シ眼球結膜下ニ溢血ヲ見ル,鼻ハ尋常ヨリ稍低ク鼻腔粘膜充血セルモ出血骨折無シ,ロハ僅ニ開キ舌ハ歯列ヨリ〇・五糎凸出セリ歯齦口腔粘膜暗紫色ヲ帯ブ。

- 四.頸部,索溝ハ甲状軟骨ノ下ヲ横走セルモ全ク 蒼白ニシテ溢血其他生活反応ノ徴ヲ見ズ。
- 五.背部,肩胛間部ニ於テ屍斑著明ニシテ其下部 ハ石板色ヲ呈ス。
- 六・外陰部,陰毛ハ中等度ニ存シ其色漆黒,膣ョ リ帯黄色溷濁セル粘液ノ漏出セルヲ見ルモ膣ニ 損傷無シ,肛門ハ哆開シ黄色軟便少許附着ス。

下. 内景検査

(其一) 頸 部 臓 器

- 七・頸部,以下正中線ニ於テ皮切ヲ加フルニ願下 部及甲状軟骨部ノ皮下組織及筋肉内ニ暗赤色ノ 凝血アリ拭除スル能ハズ。
- 八.胸部,前胸部ニ於テ胸骨上端ョリ下方劒状突起ニ至ル迄皮下組織及筋肉内ニ広汎ナル溢血アリ,該溢血両乳房ノ下ニ位スル筋肉内ニ於テ特ニ高度ナリ,何レモ暗赤色ニシテ拭除シ得ス,皮下脂肪層筋肉及骨ノ発育良好ニシテ浮腫状ヲ呈シ淡紅色ヲ帯ブ。
- 九。右側第三第四第五肋骨へ其肋軟骨トノ境界ニ 於テ完全骨折ヲ為シ其周囲ニ凝血ヲ認ム。 胸骨骨體上三分ノート下三分ノニノ境ニ於テ完 全横骨折ヲ認ム,胸廊ヲ内面ョリ見ルニ骨折部 ニハ何レモ暗赤色ノ凝血ヲ認メ拭除シ難シ。
- 十。胸腺,重サ○・○瓦,実質ニ富ミ高度ノ充血 ヲ呈ス,横隔膜ノ高サ左右共第四肋骨ニ相当ス。十一。胸腔,両側胸膜共一般ニ暗赤色ヲ呈シ肥厚 癒着ヲ認メズ,腔内左共暗赤色様漿流液各二○・
- ○立方糎アリ。
- 十二・心囊、ヲ開クニ暗紅色ノ漿液二五・○立方 輝アリ、心囊内面へ滑沢ニシテ溢血ヲ認メズ。 心臓ノ大サ本屍ノ手挙ヨリ稍大ニシテ重サ二五 五・○瓦、心尖ハ左室ヨリ成リ硬度柔軟、心外 膜下脂肪量中等度ニシテ外膜下溢血ヲ認メズ、 冠状静脈ハ怒張セリ、左心心筋肥厚無キモ淡褐 色溷濁シ心陸内ニハ全ク凝血豚脂様物ヲ認メズ、

僧帽弁ハ稍肥厚シ大動脈弁ハ菲薄,大動脈基始 部ハ尋常ノ広サニシテ米粒大ノ脂肪斑一個アリ, 右心心陸ノ拡張心筋ノ肥大ヲ認メズ,心室内ニ ハ僅ニ流動性血液ヲ有スルモ凝血無ン各弁膜装 置ニ異常無シ。

十三・肺,左右共表面滑沢石板色ヲ呈シ硬度弾力 性柔軟ニシテ平等割面暗赤色ニシテ血量ニ富ミ 各葉共同様ノ所見ヲ有シ加圧ニ依リ僅ニ泡沫ヲ 混ズル暗赤色流動性血液多量流出ス。

気管支粘膜ハ暗赤色ヲ呈シ小量ノ血様液存在ス。 十四。頸部諸臓器ヲ細検スルニ

舌ハ其右縁前半部ニ長サ二・五糎幅〇・七糎ノ 黒褐色ヲ呈セル部アリ試切ヲ加フルニ実質内出血ヲ認ム,舌背後半部ヨリ咽喉頭粘膜一般ニ瀰蔓性ニ暗赤色ヲ呈シ試切ヲ加フルニ出血ヲ認ム。 舌骨ハ両側共大角ノ體部ニ接スル部ニ於テ全骨折ヲ呈ス。

甲状軟骨ハ両側斜線ニ一致シテ容易ニ屈曲スル コトヲ得,気管粘膜汚穢暗赤色ヲ呈シ暗赤色ノ 粘稠液小量アリ,食道粘膜モ亦汚赤色ヲ帯ブ。

(其二) 腹 腔 臓 器

- 十五,腹部,ハ高度=膨満シ腹腔ヲ開ケバ腐敗臭 アル瓦斯逸出ス,大網膜脂肪含有量豊富ニシテ 腸管ノ上部ヲ被ヒ腸管ハ瓦斯ヲ以テ高度ニ膨満 セリ,蟲様突起ハ長サ八糎太サ鉛筆ヨリ稍細ク 正中線ニ向ヒ横走シ癒着無シ,腹腔内ニハ異状 液ノ猪溜ヲ認メズ,腹膜両葉共特記スペキ変化 無シ。
- 十六・肝臓、大サ二三・五 一八・〇 一一・五糎重サー一一〇・〇瓦表面滑沢石板色ヲ呈シ硬度柔軟弾力性ニ乏シ肝縁鈍ニシテ割面溷濁汚穢紅色ヲ呈シ血量ニ富ミ小葉像不明割面僅ニ膨隆シ実質内所々ニ粟粒大乃至米粒大ノ空胞アリテ刊臓実質ハ恰モ海綿状ヲ呈ス肝表面ニハ全ク損傷ヲ見ズ、膽囊内ニハ小量ノ膽汁ヲ有シ粘膜ノ性状常ノ如シ。

- 十七・脾臓、大サーニ。〇 一〇。五 三・ ○糎重サーニ五・○瓦表面皺襞=富ミ莢稍厚ク 硬度柔軟、石板色ヲ呈シ割面帯青暗褐色、血量 =富ミ脾材ハ見ラルルモ臚胞ヲ認ムル能ハズ、 実質柔軟=シテ擦渦シ得、
- 十八。左腎,大サ一○・○一一六・五 三・○ 糎重サー一二・○瓦,表面滑沢柔軟ニシテ被膜 ノ剝離容易,割面ハ暗赤色ヲ呈シ血量ニ富ミ腎 実質ハ多少膨隆ス,表面皮質部点状出血数多存在ス,腎孟粘膜充血セリ右腎,大サ一○・五 一七・五 三・○糎,重サー二○。○瓦,所見 ハ左腎ト同様ナリ。
- 十九。副腎,左側八。○瓦,右側七・○瓦,両側 共皮質及髄質 / 肥大ヲ見ズ皮質部脂肪量豊富, 色素帯著明,髄質ハ腐敗ノ為軟化セリ。
- 二十.膵臓,重サー一〇・〇瓦

硬度柔軟割面一般ニ帯紅色ヲ呈シ其頭部ニ於テ 先端ヨリ約二糎ヲ距テ拇指頭大ノ出血竈アリ該 部ノ周囲結締組織内ニ暗赤色ノ凝血ヲ認メ拭除 シ難シ。

二十一・胃,ハ高度ニ膨満シ滞帯黄灰白色未ダ消化セラレザル米粒及小量/麦粒ヲ混ゼル粥状溷 濁液ヲ以テ充満セリ,

胃粘膜ハ溷濁腫脹シ血管ハ怒張セルモ溢血ハ認 メズ。

十二指腸粘膜ニ異常無シ。

二十二・腸, ハ小腸一般ニ軽度ノ血管ノ怒張ヲ認 ムルモ粘膜ハ一般ニ蒼白ニシテ病変ヲ認メズ。

二十三。骨盤臟器

子宮ハ柔軟ニシテ長サー二・〇糎幅九・〇糎, 壁ノ厚サー・五糎,重サ二五〇・〇瓦,表面蒼白ニシテ割面ノ淡紅色ヲ呈ス,内壁一般ニ高度ノ暗赤色ヲ呈シ底部右側ニハ拇指頭大暗赤色ノ 凝血内壁ニ固着セルヲ見ル,尚内陸ニハ粘稠ニシテ暗赤色ヲ呈スル液小量存在ス。 卵巣及喇叭管ニハ特種ノ変化ヲ認メズ,膀胱ハ 八.頸部剖検ニ依リ頤下部及甲状軟骨部ノ皮下組 盈へ。

(乙) 説 明

上記ノ解剖所見ニ依レバ

- 浮腫状腫脹ヲ呈シ眼球凸出眼球結膜下ノ溢血舌 尖/凸出, 糞便/脱出等通常窒息急死ニ見ル所 見ト一致ス。
- 二.内景検査上,血液ハ主トシテ流動性ニシテ胸 腹腔各臓器ハ血量ニ富ミ欝血乃至溢血ヲ認ムル 八窒息急死タルヲ示ス有力ナル所見ナリ。
- 三.胸部ノ軟組織内ノ出血胸骨及肋骨ノ骨折等へ 鈍體ヲ以テ胸部ヲ強ク打チタル結果ニシテ損傷 部附近組織内ノ出血凝固シテ容易ニ拭除シ得ザ ルハ生前ノ受傷ナルヲ証セルモノナリ, 而シテ 本損傷ハ死ノ直接原因ニ非ズト錐モ死ヲ容易ナ ラシメタルモノト認ム。
- 四.身体数箇所ノ表皮剝脱部ハ蒼白ニシテ該部ニ 乳嘴出血其他生活反応ノ徴ヲ認メザルヲ以テ屍 ノ取扱中ニ生ジタル死後ノ受傷ナリ。
- 五。膵臓ニ限局性出血竈ヲ認メ其周囲組織内ニモ 凝血ノ存在セルハ生前上腹部ニ強ク鈍體ノ衝突 シタルヲ示スモノナリ,腹部ニ於テハ胸部ノ如 ク内部ニ堅キ骨質無キヲ以テ鈍體ノ衝突アルモ 抵抗力強キ皮膚ニハ異常無クシテ内臓ニ意外ノ 損傷ヲ生ジ得ルコトハ男性屍ノ説明ニモ述ベタ ル所ナリ。
- 六。本屍モ亦前記男性屍ト同様窒息急死ノ徴標ト 共ニ手足ノ蒼白及皺襞ヲ有シー見溺死ノ観アル モ前項ト同様ノ理由ニ依リ死後屍ノ液中ニ在リ シヲ示スモノナリ。
- 七.頸部ヲ括リタル麻縄ハ索溝ヲ印スレドモ其部 **ハ唯蒼白ナルノミニシテ索溝ニ一致シテ生活反** 応トシテノ変色又ハ溢血等ヲ認メザルニ依り此 ハ死後纒絡セシモノナリト推定ス。

空虚ニシテ粘膜滑沢淡赤色ヲ呈シ血管著シク充織及筋肉内ノ出血、舌骨骨折、甲状軟骨両板ノ 可動容易等ノ所見ヲ有スルハ鈍體ヲ以テ強ク該 部ヲ絞圧セシモノト推定セラレ前記窒息死ノ徴 候ヲ断定的ニ解決スル直接原因ト認ムルヲ得。 一.外表検査上屍斑著明ニシテ拡ク顔面ハ紫藍色 九.子宮ノ異常ニ大ニシテ前記所見ヲ有スルハ産 毎中ニアルヲ示スモノニシテ出産后概ネ三週間 余経過セシモノト推定セラル。

(丙)鑑定

上記説明ノ理由ニヨリ鑑定スルコト左ノ加シ 一. 本屍ハ頸部ヲ鈍體ヲ以テ絞圧セラレ窒息急死 セルモノナリ。

二.胸部ノ外傷及膵臓ノ損傷ハ生前鈍體ニ依ル暴 力ノ為生ジタルモノナリ。

>>> >>> >>> 第三項 男性小児屍(姓名不詳)九月二十一日午 前十時十分乃至午前十一時二十六分

男性小児屍ハ他ノ二屍ト同様ニ一枚ノ畳表ヲ以 テ包ミ何レノ體部ヲモ外部ヨリ見ル能ハズ同様ノ 麻細縄ヲ以テ頸部,胸部中央,大腿中央。膝関節 部/四ヶ所ヲ畳表/上ヨリ緊縛セリ, クヲ除クニ 頸部ニハ他ノニ屍ノ如キ何等纒絡セルモノ無クー 見索溝其他外力ノ加ハリシ痕跡ヲ認ムル能ハズ、 身ニ何等纒ヘルモノ無ク全ク裸體ナリ。

(甲) 解剖検査記録

上外表検査

- 一. 男性小児屍, 體格栄養共二良好, 身長三尺九 寸二分。
- 二.皮膚, 殆ド全身ニ亘リ淡紅色/屍斑ヲ有シ腹 壁下部ニ於テハ石板色ニシテ腹部ハ高度ニ膨満 ス,両下腿ニ浮腫ヲ認メズ,両手両足蒼白ニシ テ皺襞ニ富ム、死後強直ハ既ニ何レノ関節ニ於 テモ認ムルヲ得ズ。
- 三.頭部及顔面。頭部毛髪ハ漆黒色ニシテ密生シ 長サ二糎ニシテ有毛部ニ損傷ヲ認メズ顔面ハ紫 藍色乃至石板色ヲ呈シテ高度ニ腫脹シ殊ニ左半

側へ他側=比シ高度=腫大セリ,両眼瞼及左眼球結膜=高度ノ溢血アリ両眼共閉ヂ居レルモ眼球ハ凸出シ角膜へ汚穢灰白色=溷濁ス。右眼球結膜ハ著シク充血セルモ出血無シ,右耳ョリ稀薄ナル血様液ヲ出ス。

鼻へ稍低の鼻孔ョリ稀薄ナル血様液ヲ出ス,ロハ半開ノ位置ニアリテロ唇紫藍色ヲ呈シ舌ハ歯 列ョリ一糎凸出セリ,歯齦及口腔粘膜ハ暗赤色 ヲ帯ブ。

四.陰部及腋窩ニハ未ダ発毛ヲ認メズ,陰茎及睪 丸/発育尋常ナリ。

肛門ハ多開シ黄色軟便少許附着ス,第二項起載 ノ外軀幹上下肢ニ特記スペキ変化ヲ認メズ。

下. 内景検査

(其一) 頸 部 臓 器

- 五.頸部,正中線ニ於テ皮切ヲ加フルニ前頸部中央,甲状軟骨部及其周囲ニ於ケル結締織並ニ筋肉内ニ出血ヲ認メ血液ハ凝固シテ拭除スルハ得ズ。
- 六.胸部, 軟組織内ニ出血ヲ認メズ, 胸骨及肋骨 ノ損傷モ認メズ。
- 七 ・胸腺, 重サー七瓦実質性ニシテ高度/暗赤色 ヲ呈ス。横隔膜/高サ右第四肋骨左第五肋骨ニ 相当ス。
- 八.胸腔,ヲ開クニ左側ハ左肺下葉全面ニ亘リ胸膜,粗ナル癒着ヲ有シ暗赤色血様液一〇・〇立 方輝アリ。

右胸腔内面ハ全ク滑沢透明ニシテ癒着溢血斑等 ヲ認メズ,左側ト同様ノ液四○・○立方糎ヲ有

九.心囊、ヲ開クニ鮮紅色不透明液一二・○立方 糎アリ、心囊内面ハ滑滑ニシテ癒着溢血等無シ。 心臓の大サ本屍ノ手挙大ニシテ重サ一一○・○ 瓦。

心尖鈍園両室ヨリ成リ硬度柔軟心外膜ニ異常無

ク外膜下脂肪層尋常冠状静脈充血ス,心臓剔出 ニ際シ暗赤色流動性血液小量流出ス,左心。心 筋ノ肥厚溷濁無ク心腔内ハ全ク空虚ニシテ溢血 小認メラレザルモ暗赤色ヲ呈ス。弁膜装置異常 無シ,右心,心腔ノ拡張心筋ノ肥大無ク所見左 心ノ如シ,卵円孔ノ開存,ボタリー氏管ノ開通 等無シ。

- 十・肺、ハ右側胸膜非薄透明表面滑沢硬度弾力性 柔軟ニシテ平等、割面暗赤色ニシテ血量ニ富ミ 各葉共同様ノ所見ヲ有シ加圧ニ依リ暗赤色流動 性血液多量流出ス,気管支粘膜ハ暗赤色ニシテ 稀薄ナル暗赤色様液小量ヲ有ス。 ト色様液小量 左肺ハ下葉全面繊維性肥厚ヲ呈シ硬度及割面ノ 状況全ク右肺ト同様ナリ。
- 十一、頸部諸臓器ヲ細検スルニ

舌根部背面周囲咽喉頭粘膜瀰蔓性ニ暗赤色ヲ呈 シ数ケ所試切ヲ加フルニ浅キ溢血ヲ認ム。

気管及食道粘膜へ汚穢暗赤色ヲ呈シ暗赤色ノ粘 稠液小量アリ。

舌骨ハ両側共大角ノ體部ニ近キ所ニ於テ全骨折 ヲ呈ス。

甲状軟骨ハ両側斜線ニ一致シテ容易ニ屈曲スル コトヲ得。

(其二) 腹 膵 臓 器

十二.腹部,ハ膨満シ腹腔ヲ開ケバ腐敗臭アル瓦 斯逸出ス。

大網膜脂肪ニ富ミ腸管ヲ被ヒ腸管ハ瓦斯ヲ以テ 膨満セリ,漿膜ノ充血高度ナラズ,體壁腹膜ハ 滑沢ニシテ稍溷濁ス,腹腔内ニ淡赤色溷濁セル 漿液二〇・〇立方糎アリ,蟲様突起ハ長サ一〇・ ○糎,太サ鉛筆大ヨリ稍細ク二重ニ彎曲シテ骨 盤腔ニ下降セリS字状部ニ変化無シ。

十三。肝臓,大サ二四・〇 — 一六。〇 — 七・ 五糎重サ八七五・〇瓦表面滑沢菲薄透明ニシテ 濁肥厚無シ肝小葉ハ著明ニシテ血量ニ富ム, 肝 表面ニ損傷ヲ認メズ, 胆嚢ハ小指大ニシテ内陸 窒息急死ノ所見ト一致スル所ナリ。 ニ黄色溷濁セル液アリ粘膜ニ異状無シ。

十四・脾臓・大サ九・〇 ― 七・〇 ― 三・〇糎 重サ五六・○瓦。

莢膜非薄ニシテ硬度柔軟割面血量ニ富ミ膿胞ノ 発育良好ニシテ著明ナルモ脾材ハ殆ド見ル能ハ ズ. 実質比較的鞏固ナリ。

十五。左腎,大サ九·五—四·五—二·五糎 重サ六二・○瓦。

表面平滑ニシテ被障ノ剝離容易硬度柔軟ナリ, 割面暗赤色ニシテ血量ニ富ミ軽度ニ溷濁腫脹 ス, 腎孟粘膜異常無シ。

右賢,大サ,八・○ ─ 四・五 ─ 二・五糎, 重サ五七・○瓦。所見、左腎ニ同ジ。

- 十六. 副腎, 左四・〇瓦,右三・六瓦, 皮髄両質共 ニ著変無シ、色素帯ニ於テ軽度ノ充血アリ。
- 十七。膵臓,重サ三二・〇瓦,硬度柔軟ニシテ割 面一般ニ充血ヲ呈セルモ出血ヲ認メズ。
 - 十八. 胃, ハ其大サ尋常帯黄灰白色末ダ消化セザ ル米麦粒を混ジ溷濁セル粥状液ヲ以テ充満セリ 胃粘膜ハ溷濁腫脹シ一般ニ充血セルモ特ニ胃底 部並ニ小彎部ニ著明ナリ。
- 十九, 腸, ハ一般ニ充血セルモ十二指腸ョリ回腸 上三分ノーニ至ル迄特ニ著明ニシテ諸処ニ小溢 血斑ヲ認ム。
- 二十.膀胱,ハ空虚ニシテ粘膜充血シ諸処ニ黙状 溢血アリ。

(乙) 説 明

上記ノ解剖所見ニ依レバ

藍石板色ニシテ高度ニ膨大シ, 眼球凸出, 眼球 窒息急死ノ徴標ナリ。

- 辺緑鈍圓硬度柔軟ナリ割面帯青暗赤色ニシテ阁 二.内景検査上概ネ前二屍ト同様胸腹部内臓ニ於 テ欝血或ハ溢血ヲ認メ血液ノ流動性ナルハ一般
 - 三.窒息急死ノ所見ト共ニ手足ノ蒼白ニシテ皺襞 ニ富ムハ溺死ヲ疑ハシムル所アルモ前二屍ト同 様ノ理由ニ依リ又次項ニ述ブル明白ナル窒息原 因ヲ有スルヲ以テ本屍モ亦死後水中ニ投ジタル モノト認ム。
 - 四. 頸部剖検ニ依り前頸部中央皮下軟部組織内ノ 出血舌骨々折甲状軟骨両板ノ可動容易ナルコト ハ前二屍ト同ジク該部ヲ鈍體ヲ以テ強ク絞圧セ シモノト推定セラル, 而シテ此頸部所見ヲ呈ス 外力ニ依り人ハ容易ニ死ニ室ルモノナリ。
 - 五、本屋ニハ前二屋ノ如キ頸部ニ麻縄ノ纒絡無ク 又索構ト認ムベキ痕跡モ有セズ頸部皮膚ハ外観 上何等異常ヲ認メラレザルヲ以テ縄紐以外ノ鈍 力ヲ加ヘシモノト推定スルコトヲ得。

(丙)鑑定

ト記説明ノ理由ニ依リ鑑定スルコト左ノ如シ 一.本屍へ頸部ヲ鈍體ヲ以テ絞圧セラレ窒息急死 セシモノナリ。

第三鑑定 / 総括 以上三屍ヲ総括的ニ観察スレバ左ノ如シ。

- 一、三屍共窒息急死ノ状態ヲ呈シ頸部臓器ノ損傷 高度ナルヲ以テ該部ノ絞圧ニ依ル窒息急死タル コトハ明瞭ナリ。
- 二.三屍共水中ニ於テ発見セラレ又皮膚ノ所見之ニ 一致スルモ肺及胃腸何レニ於テモ溺死液及其莢 雑物ノ侵入ヲ認メズ、而モ第一項ノ如キ断定的 ニ死因ヲ説明スル所見アルヲ以テ溺死ニ非ズ死 後屍ヲ井戸ニ投ジタルコト確実ナリ。
- 一.外表検査上屍斑著明ニシテ範囲拡大、顔面紫 三.男女二屍ニハ首ニ麻縄ヲ堅ク 纒絡シ一見之 ヲ以テ絞殺セシ如クナルモ該部皮膚ニハ生前受 結膜下ノ溢血、舌ノ凸出脱糞等ヲ認ムルハ一般 傷ノ確徴無ク、小児屍ハ頸部ノ剖検所見前ニ屍 ト其軌ヲ一ニセルニ係ラズ,縄ノ緊縛無キヲ以

テ此ノ三屍ハ共ニ他ノ方法ニ依り喉頭部ヲ鈍體 (挙或ハ前膊ノ如キ)ヲ以テ絞圧シ窒息セシメ タルモノト思考ス。

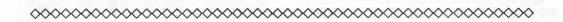
四。男女二屍ノ前胸部ノ受傷ハ頗ル強大ナル外力 (蹴ル, 踏ミツケル等) ニ依ルモノナルコトハ 明白ナルモ前ニ説述セル如キ理由ニ依り此ハ絶 命前受傷ニシテ又死ノ直接原因ニ非ズ, 然レ共 死ヲ容易ナラシメタルハ確実ナリ。

五・三屍共胃内容ハ未ダ消化セラレザル米粒及麦 粒ヲ混ゼル粥状物ョリナルヲ以テ食後概ネ二時 間以内ニ殺害セラレタルモノト認ム,尚三屍共 腐敗現象ノ程度ニ依リ死後約五日ヲ経過セシモ ノト推定ス。 六.男女二屍ノ胸部外傷ハ甚ダ高度ナルニ係ラズ 皮膚ニハ之ニ相当セル損傷無キヲ以テ衣服ノ上 ヨリ加害シ致死後裸體ト為シ畳表ニテ梱包ノ上 井戸ニ投ゼシモノト推定ス。

右記ノ理由ニ依リ三屍ノ直接死因並ニ手段ハ全 ク同様ニシ左ソ加ク鑑定ス。

一.死 因 窒 息。

二.手 段 前頸部ヲ鈍體ヲ以テ絞圧セリ。此鑑定ハ大正十二年九月二十日着手同年九月二十六日結了大正十二年九月二十六日。



大正十二年十二月十七日

静岡民友新聞記事から

短銃で威嚇し大杉等の遺骨奪取!!

葬儀準備中の労働運動社の怪漢三名路次外で短銃を乱射し自動車で迯走!!

大杉栄夫妻,橋宗一の葬儀は十六日午后一時から谷中斉場に於て執行する事になったので,東京本郷駒込片町十五の労働運動社では橋あやめを始め,近藤,和田其の他の諸氏は前夜から通夜を営み朝来葬儀の準備に忙殺されて居た処,午前八時頃,紋付羽織袴を着した年令三十才位の男が来て「大杉の田舎から会葬に来ました」と洋服にオーバーセーターを着た二人の男と上り込み遺骨を安置した座敷へ来て,暫らく近藤等の挙動を見て居たが同九時頃突然隙を窺ひ立上るや,ツカツカと床の間に進み寄り遺骨の箱に手を懸け,之を左手に抱え,右手に隠し持った六連発のピストルを取り,寄らば打たんと身構え,二人の男は其の前后を守護して悠々と同家を立出でたので居合はせた

近藤,和田等は一時呆気に取られて居たが直ちに 其の後を追跡すると,其男は路次外でピストルを 乱射して,これを威嚇し一発は門を貫き隣家の高 橋方に飛込んだ,斯くて近藤等の怯む処を表に待 たしてあった自動車に乗込み何れにか姿を隠した, 此騒ぎがあったとは云へ谷中には鬼に角同志等が 待ってゐる事であるから,近藤等は午前十一時同 所へ出発した(東京電話)

尾行巡査と大格斗遂ひに捕はる

遺骨を奪取した下鳥繁蔵は支那浪人で現に大化会の一員として活動して居たもので、同人は尾行 巡査と電車通りで大格斗の末捕縛されたが、他の 二名は何れかに逃走した(東京電話)